

2023年4月19日（金）～4月21日（日） 石鎚山（1982m）登山&松山、高知観光

クマさん会では、2012年（平成24年）秋に四国剣山と石鎚山に登っています。紅葉がピークの頃でしたので、登山道は数珠繋ぎ状態だったことを思い出します。丁度干支が一回りしたところで、再び石鎚山登山を計画しました。今回は新緑の石鎚山を楽しむことにします。

4月下旬ごろは、雪が残っていることもあるようです。幸い暖かい春を迎えた今年は残雪が無く、軽アイゼンの持参は不要でした。また、登山客が一気に増える五月の連休を避けたお陰で、登山道や山頂が混雑するようなことも一切ありませんでした。

登山に合わせて、松山と高知の観光もプランに組み込みました。高知では、生ニンニクの効いたカツオのたたきに舌鼓を打ちました。

参加者は、根岸さん、服部さん、中島さん、吉松の4人（根岸さんは19日夕方からの参加）。

*今回の計画づくりには、松山在住のS社OB今村清典さん、永井源一郎さんに沢山のアドバイスをもらいました。また、初日の道後温泉での夕食にもお付き合い頂き、楽しいひと時を過ごすことができました。

*ホームページ作成は、4人で分担して行っています。4人の作り方にはトーン&マナーがそれぞれ違います。個性が出て面白いものになるのではないかと期待して試みました。

担当：吉松

初日；4月19日（金） 晴れ 東京から松山へ移動 そして内子町、松山城を観光

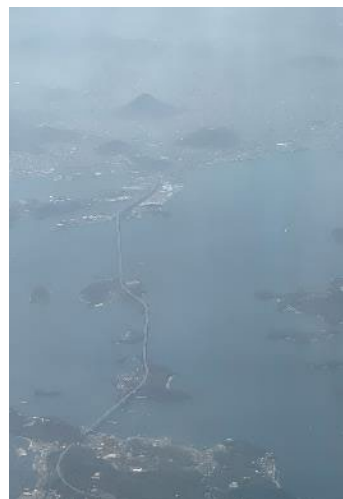
出発前々日の17日（水）夜遅くに、四国最西部の八幡浜、宿毛辺りに震度6弱の強い地震が発生。一瞬、今回の計画は全てご破算かと思ったが、松山市内や高知市内は左程の揺れも無く被害も出ていないことが分かり、石鎚山登山決行とした。

8時30分、服部さん、中島さん、吉松は羽田空港 JAL 搭乗待合場所に集合
JAL の搭乗手続きに手慣れた中島さんの誘導宜しく、順調に手続きを済ませることが出来た。



9時40分頃離陸して、
JAL 433 便の機上の人
となる。

30分足らずで富士山上
空を通過



1時間ほどで瀬戸内海上
空に差し掛かり、徐々に高
度を下げ始めた。

瀬戸内海の島々を結ぶ橋
もはっきりと見え始めた。

中島さんと服部さんは外が見られる窓際に席を占めて、眼下に広がる風景を写真に収めている。

外が見えない吉松は手持無沙汰になり、機内雑誌に載っていた7つの間違い探し（日本語版）に精をだした。

隣に座っている中島さんも誘って、間違い探しの競争することにした。**結果は吉松の辛勝。**

これに味をしめて、今度は英語版の間違い探しにも中島さんを誘った。**そしてこちらも、吉松が辛勝。**

*何しろ吉松は、毎週日曜日の新聞紙上に掲載されている「**20の間違い探し**」を欠かすことなくやっている。

何年続けているか、今では分からない位だ。長年のトレーニングの効果が少しは出たか？



11時05分、定刻に松山空港到着

預けていた荷物をピックアップ



予約をしていた日産レンタカー空港店で車を借用

松山空港で借りて高知龍馬空港で乗り捨てる、レンタカーによるによる長旅の始まりだ。

本日はホテルにチェックインする夕方まで、時間の許す限り観光をすることにした。

最初の観光先としては、服部さんから内子町（うちこまち）が提案されていた。

昼食は、名物鯛めしが絶品の食事処「魚林・りんすけ」と目星も付けてあった。

車は快調に走り、12時半過ぎには目指す食事処「りんすけ」の看板前に到着

さて、希望通り名物鯛めしにありつけたのでしょうか・・・

内子町での昼食や散策の顛末と、その後の松山城訪問は、服部さんのレポートで・・・

はい、ここからレポーター服部にチェンジです。内子と松山城のレポートを命じられました。

観光なので、さらっとご紹介、お昼を食べて小一時間の散策。 **さあ、まずは「内子」からです↓↓↓**



大森和蠟燭：NHKのドラマ「旅屋おかえり」ご覧になった方いますか？原田マハさんの小説のドラマ化で、安藤さくらさんが主演。店内には安藤さん来訪時の写真も。和蠟燭の製法や炎の特徴を女将さんが丁寧に説明してくださり、中島さんと私はもれなく購入です。(笑)


松山空港から直行した内子(12:40 着)、まずは「鯛めし」目指してガイドブックにあったお店に直行⇨なのに「準備中」？ああ無常の「臨時休業」でした(泣)

中島さんがすかさずスマホで検索し、近くのお店でランチにありつけました。吉松さんは海鮮丼、女子2名は鯛のすり身をすりつぶしたさつま汁定食(冷や汁みたい)を美味しくいただきました～(泣)

お腹を満たして赤丸印の店舗やお屋敷を見学です。

内子～江戸時代後期から大正時代にかけて木蠟の生産で栄えた町。約600mの通りに町屋や豪商の屋敷が当時のまま軒を連ねています。最もお金持ちなのが、「本芳賀」、一番分家が「上芳賀」(写真右上)。「下芳賀」というお家もありましたよ、なんだか横溝正史ワールドをイメージしちゃいます。





内子といえば有名な「内子座」は、こちらのページでご紹介。

大正5年(1916年)に大正天皇の即位を祝い創建された内子座。木造2階建ての瓦葺き入母屋作り、純和風様式の本格的な芝居小屋として建設されました。回り舞台や花道、桝席、楽屋などがあり当時の建築技術の粋が集められた建造物です。近年、老朽化のため取り壊されるところ、地元住民の熱意により改修が決定。昭和60年(1985年)に復原工事が完了し、芝居小屋として再出発を果たしました。今では、町内外の芸術文化活動の拠点として活用されています。(HPより)

さて、ここで旅のエピソードを一席。

先ほどお昼を食べた「米屋」さんでウロウロしていた中島さん。「コレ使っていいのかな？」とチケットを持ってきました。内子で有料の見学所3か所がセットになったチケット。1か所だけ使われていて、これから行く予定の内子座400円のチケットが残っている。

吉松さんと服部「え～、持ってきちゃっていいの？」そこはグイグイ行く中島さん、お店の女将さんに「これもらっていいんですか?」、「あ、それはお客さんの忘れ物、使ってええよ～」

さすが目敏い中島さんのおかげで400円のところ無料で見学と相なりました～!・・・カチカチ



舞台には隈取りの面と法被が撮影用に置いてあり、ちょっとカブいて記念撮影。地下の「奈落」も見学できます。奈落はとってもヒンヤリしています。興味のある方はこちらで検索してね。<https://www.we-love-uchiko.jp/>

内子で想定より時間を使ってしまい、ゴールド免許ドライバーのMr.吉松、冒頭にあった空色のマーチを飛ばして松山城へ向かいます🚗👉

松山城:江戸時代までに建造された天守が現代に残っているのは、全国で12城しかありません。これを「現存12天守」といい、松山城はそのひとつ。さらにその12城の中でも「葵のご紋」がついた唯一のお城。創設者は加藤嘉明、1602年に築城開始、その後数々の紆余曲折を経て1854年に落成。百名城のひとつ。

15:40 駐車場着、1時間以内なら駐車場は無料です！キーワードは「時短」、松山城見学スタートです～



クマさん会は登山部ですが、、、「時短」だからもちろん乗り物です(笑)
登城道は歩いたら20～30分かかります。リフトとロープウェイがあり、リフトは6分、ロープウェイは3分(10分毎の運行)、行きはすぐに乗れるリフトで登城。(因みにどちらに乗っても往復520円)



リフトを降りると立派な石垣、目を見張ります。2日前に四国を襲った震度6弱の(松山は震度4?)地震にもビクともせずにそびえていました。



石垣を眺めながら歩みを進めるとこれまた立派なご門です。じっくり、ゆっくり眺めたいところですが、「時短」ですから、とにかく、どんどん進みます。



どんどん進んで、、、お———！
松山城の本丸がお目見えです。
こんな立派なシャチホコがついてます。
どこをとっても立派です。





広場ではよしあきくんがお出迎え。服部「よしあきくん」って足利氏ですか？
吉松さん「さあ？」

(正解:加藤氏)

そしてそして、ソメイヨシノは終わっていたものの、八重桜が満開でお待ちかね。
3名「わお——、さくらと城じゃ〜！」歓喜の写真撮影（笑）



「時短」ですから、城郭内部見学はあきらめて、桜とお城を満喫し帰ります。



帰りは、ちょうどロープウェイの出発時間で、あっという間にお城をあとに。
1時間以内で効率的にお城見学と相なりました。
となると、いよいよ次は楽しみにしていた道後温泉♨️
吉松さんと服部は事前に「坊ちゃん」の復習もして、準備万端です。以上、服部でした。
では、吉松さんにお返ししまーす！

少々駆け足だったが松山城散策を終えて、今日の宿泊先である道後温泉街の「ホテル パティオ ドウゴ」に向かった。



道後温泉に向かう途上で、路面電車とすれ違った。
松山市には、今では珍しくなった路面電車が走っている。
デザインも洒落ていて楽しませてくれた。



10分ほどで本日の宿泊先「ホテル パティオ ドウゴ」に到着

道後温泉本館のすぐ隣に位置している。
浴衣のまま本館に入れるのが、ホテルの売りになっている。



チェックインを済ませて、早速本館に向かったが現在は内部の大改修中
(写真は、改修前の本館玄関)

現在は一部の湯船しか使用することが出来ず、入浴希望者は予約制になっていた。
やむを得ないので、近くの「椿の湯」でひと汗流すことにした。



「榊の湯」

道後温泉商店街を抜けたところであって、ホテルからも歩いて2、3分で行ける。今日は日差しの強い一日だったので、汗を流すことが出来てさっぱりした。



吉松は早速浴衣姿

本日の夜は、松山在住の S 社 OB を交えて夕食をとることにしていた。国内営業の今村さんと、国内・海外営業の永井さんである。お二人には、食事会場の予約や、最近の石鎚山の情報をもらうなど、何かとお世話になった。



今村さん、永井さんとは18時20分にホテルロビーで待ち合わせた。

今回の登山行に遅れて参加の根岸さんも、ここの待ち合わせ場所で合流した。

【閑話休題】

中島さんと服部さんは風呂上り後も、じっとしていない。

待ち合わせ時刻までの寸暇を惜しんで、どこかでソフトクリーム店を見つけてきて、ペロペロ舐めていた。

夕食前というのに、ソフトクリームは別腹らしい。





18時30分

6人全員が揃って、今村さんが予約してくれた瀬戸内料理「金兵衛」に繰り出した。



右奥 : 今村さん

右中央 : 永井さん

根岸さんも参加できて、6人による夕食会となった。

今村さんが予約してくれたコース料理は、「宇和海鯛尽くし（飲み放題付き@5000円）」

- ・先付け
- ・鯛のうす造り
- ・鯛の塩焼き
- ・鯛のかぶと煮
- ・鯛のいそべ揚げ
- ・茶碗蒸し
- ・宇和島の鯛めし
- ・鯛のあら汁
- ・デザート





腹いっぱい食べ、しこたま飲み、
そして良くしゃべった。

これほどまでの鯛づくしを食べられて、我々は大満足であった。
内子町で食べ損ねた、服部さんご所望の「鯛めし」にありつけたのもラッキーであった。

ただ、翌日が登山であることを忘れて、飲みすぎたのが不覚であった。



20時30分

とつぷりと日が暮れた「金兵衛」をあとにし
た。



むくつけき男どもは、道後温泉街で別れた。

初日は観光と美味しい食事の一日となりました。

4人とも、今村さんや永井さんと色々な形で縁の有ることが分かり、話が弾んで楽しい夕餉でした。
今村さんのアドバイスで、高知の夕食、昼食もかなり期待が出来ることが分かりました。

一方永井さんの情報で、石鎚山山頂の最後の岩場では、まき道が熊笹植栽の為に利用できないとのことでした。あの細い最後の岩場を歩けるのかどうか、少し不安がよぎりました。

夕食でお腹いっぱいではありましたが、道後温泉本館に少しでも浸かりたいと、9時半ごろ中島さん、服部さんは出かけました。